

(社) 日本放射線技師会第70回定期総会報告

(社) 埼玉県放射線技師会
副会長 橋本 里見

平成23年6月11日(土)に(社)日本放射線技師会第70回定期総会が、千代田区北の丸公園内にある科学技術館(サイエンスホール)にて行われた。

はじめに、総会開会前に東日本大震災における被災者と平成22年度の物故者に対し黙とうが捧げられた。

続いて、14時から井戸副会長の開会の辞、そして中澤会長の挨拶が始まった。会長は、東日本大震災における日本放射線技師会(以下、日放技)の対応、チーム医療に対する取り組み、入会促進の事業活動についての3項目について述べた。東日本大震災については、避難者に対する放射線サーベイヤーと検案前のご遺体に対するサーベイヤーを派遣して福島第一原発事故への協力を行ってきたことを報告した。チーム医療に関しては、現在業務がクロスオーバーする領域に対し厚生労働省と話し合いを続けていると報告した。入会促進に関しては、現在厚生労働省のデータでは入会率が61パーセントであるという現状を改善するため入会促進セミナーを全国で行っていると報告した。

次に、表彰式が執り行われ、功労表彰1名、放射線サーベイヤー55名、ご遺体放射線サーベイヤー27名と福島県放射線技師会会長に感謝状が贈呈された。また、勤続50年表彰者31名、勤続30年表彰者337名に対しては、第27回診療放射線技師総合学術大会(青森県)において行うと表彰委員会から報告された。

続いて、資格審査委員会・総会運営委員会委員長から240名の代議員のうち出席が220名、委任状提出20名が確認されたことを報告し、議長候補として埼玉県放射線技師会の堀江氏と愛知県放射線技師会の近藤氏について議長資格を満たしていると述べ推薦した。資格審査委員会・総会運営委員会委員長は、議長の決定について代議員の挙手をもって行うと述べ、賛成多数により議長が選任された。また、今回の総会では傍聴者が7名参加した。

次に、堀江議長が総会職員候補者を読み上げ提案し、挙手をもって賛成多数により議事に入った。

まず、第1号議案の平成22年度事業報告について、中澤会長が総括を述べた。平成22年度の事業は厚生医療の基本にもとづき医療の質の向上と定款に定める「診療放射線学および診療放射線技術の向上発達ならびに公衆衛生の向上を図り、もって国民保健の維持発展」を中心に活動を展開してきたと述べた。

続けて、第2号議案の平成22年度決算報告が片倉常務理事より決算書にもとづき説明があった。第3号議案の監査報告は唐川監事と田城監事がそれぞれ報告した。そして、この1号から3号議案については質疑がなく採決に入り賛成多数により承認された。

休憩をはさみ、第4号議案の平成23年度事業計画案について中澤会長が総括を述べた。いくつかのキーワードを挙げると、チーム医療の推進、今まで以上の質の高い患者サービスの提供、技術部長、主任の育成プログラムの作成、公益社団法人への移行と社会的責任を果たすことなどにつき事業展開していく予定と述べた。

続けて、第5号議案の平成23年度予算案について片倉常務理事が予算案について予算書(案)にもとづき説明した。続いて質疑に入りいくつかの質問が出された。主なものとして、表彰費が少なすぎる点、

ADセミナーの事業活動について、会員データベースの再構築が遅くなっている点などの質疑があったが執行部の回答後採決に入りいずれも賛成多数で承認された。

議事の最後には、今年のスローガンである「国民・医療者と協働し、質の高い医療を提供しよう」について拍手をもって代議員の賛同を得た。

最後に、小川副会長による閉会の辞で、第70回定期総会が終了した。

承認された平成23年度の事業計画が活発に展開され、今後の日本放射線技師会の更なる発展を期待したい。

